

令和 5年 12月 7日

豊田市長 太田 稔彦 様

旭地域会議
会長 林 義 治

答 申 書

地方自治法（昭和22年法律第67号）第202条の7第1項の規定に基づき、令和5年8月3日付けで諮問を受けた「第9次豊田市総合計画に掲げる本市のまちづくりの方向性である「(仮称)ミライ構想」のめざす姿やまちづくりの基本的な考え方、都市構造」について、下記のとおり答申します。

記

1 旭地区の現状

旭地区は、各主体が地域のめざす姿を共有し、互いにつながりながらまちづくりに取り組む風土が醸成されていることが特長である。

旭地域会議は、平成20年度に「地域核を中心としたまちづくり報告書」をまとめ、それを基礎として平成23年度に「旭地区まちづくり計画」、令和2年度に「第2次旭地区まちづくり計画」を策定し、当該まちづくり計画を上位計画として、旭地区内35町内会がそれぞれ「集落ビジョン」を策定し、地域活動や移住者の受入れなどに取り組んできた。

また、敷島自治区は、独自のまちづくり計画である「しきしま♥ときめきプラン」を策定して支え合いのまちづくりを推進し、市社会福祉協議会旭支所は「第2次地域福祉活動計画（旭地区版）」を独自に策定して管内の地域活動団体のつながりを強化するなどしている。

2 答申

(1) 「都市構造の実現に向けた方針」

生活 拠点への更なる機能集積により地域の活力と魅力を向上の項目について

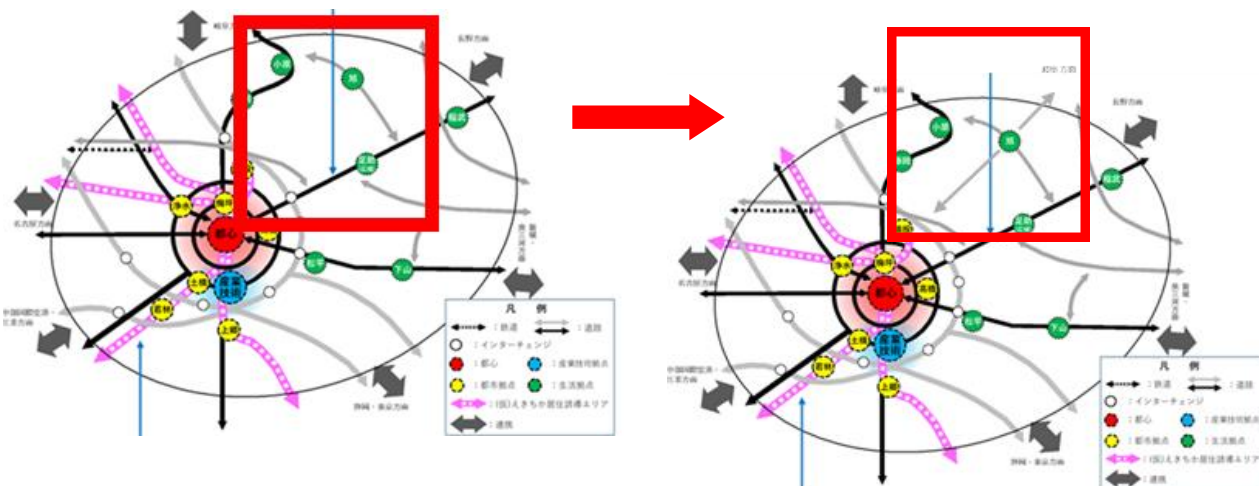
山村地域においては、商店や医療機関を始めとした都市・生活機能が縮小し、単独での機能維持が困難になることが考えられ、拠点間を連携し機能を補完し合う仕組みが重要となるが、文中の「拠点への都市・生活機能の集積」という表現だけでは「コンパクト」の部分だけが表現されており、連携についての説明が不十分であるとする。

「ネットワーク」の強化も表現するために「拠点への都市・生活機能の集積及び連携」とすることを提言する。

(2) 「都市構造のイメージ」の項目について

「拠点等が公共交通や道路で結ばれた『つながるまちづくり』」は、山村地域住民にとって重要な考え方である。しかしながら、示された都市構造イメージ図は旭地区がどの拠点とも直結しておらず、孤立している印象を持ちかねない。このことは地域にとっては負のイメージでしかない。

「暮らし機能の連携」を謳うのであれば、「県道 11 号豊田明智線」や「基幹バス」等で、旭地区が都心及び足助地区と繋がっていることを表現すべきと考える。



3 意見

(1) 「豊田市を取り巻く環境」

「中長期的な人口減少局面の進展、少子化・人生 100 年時代の進展」の項目について

先の予測が困難な時代の中で、唯一確実なことは人口減少と少子化の進行である。そしてそれは、山村地域ではより早期にそして顕著に訪れている。中長期的にみれば都市部においても同様のことが言え、比例して関係人口も減少し、集落の維持がますます困難になる蓋然性が高いと考えざるを得ない。

人生 100 年時代の進展を想定する中、各年齢層において属性に応じた適切な支援がされ、これまで「支えられる側」のみであった高齢者も「支える側」としても活躍できる生涯現役のまちづくりが推進されるような視点が示されることを期待する。

(2) 「豊田市を取り巻く環境」

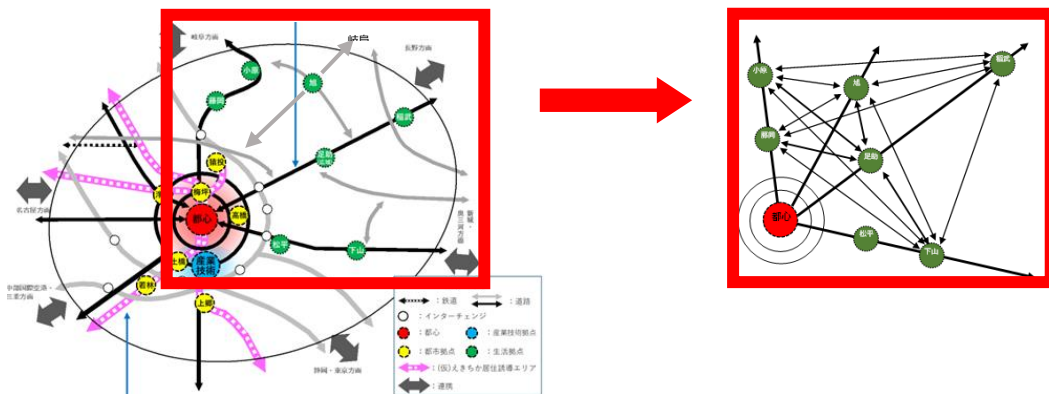
「デジタルトランスフォーメーション（DX）の加速、生成 A I 等の技術革新」の項目について

8 総期間中において、産業及び行政手続き等の分野では一定の DX 進展が図られたと理解する。9 総では、デジタル強靱化戦略に掲げられる「行かない窓口」の実現などによる、行政手続きにおける山村地域住民のさらなる負担軽減が図られることが期待される。

併せて、これら DX による「利便性の向上」に加え、「生活の質の向上」も求められると考える。医療・買い物等はもとより、文化・芸術・学術など人生を豊かにする経験を地域格差なく享受できるようにすることで、「心の豊かさ」や「郷土愛」を育むことが重要であるといった視点が示されることを期待する。

(3) 「都市構造のイメージ」の項目について

生活拠点とそれを繋ぐネットワークを見せる図であるのなら、特に山村地域は線の繋ぎ方などを強調し、各拠点間を繋いだネットワーク図で表現した方が意図を伝えやすいのではないか。



4 その他

(1) 旭地域会議委員 (15名)

会 長	林	義 治	公共的団体	敷島自治区
副会長	板 倉	小 夜 子	識見を有する者	敷島自治区
委 員	秋 野	茂	公共的団体	小渡自治区
委 員	安 藤	鍊 三	公共的団体	浅野自治区
委 員	稻 垣	雅 子	識見を有する者	浅野自治区
委 員	宇 井	幹 尚	公共的団体	笹戸自治区
委 員	梶	昌 樹	公共的団体	築羽自治区
委 員	後 藤	洋 介	公共的団体	小渡自治区
委 員	鳥 居	信 宏	公募	小渡自治区
委 員	長 澤	壮 平	公共的団体	敷島自治区
委 員	成 瀬	裕	公共的団体	浅野自治区
委 員	増 田	尚 子	公共的団体	築羽自治区
委 員	柳 井	清 一 郎	公共的団体	笹戸自治区
委 員	藪 下	隆	公共的団体	小渡自治区
委 員	渡 邊	さとみ	公共的団体	敷島自治区

(2) 答申検討状況

第1回	令和 5年 7月 9日 (日)	第4回地域会議
第2回	令和 5年 8月 3日 (木)	第5回地域会議 (諮問)
第3回	令和 5年 9月 7日 (木)	第6回地域会議
第4回	令和 5年10月 5日 (木)	第7回地域会議
第5回	令和 5年11月 2日 (木)	第8回地域会議